

19. 岡本山古墳群

おかもとやまこふんぐん

所在地：越前市岡本町

調査原因：範囲確認調査

調査期間：平成 23 年 12 月 6 日～

平成 24 年 3 月 30 日

調査主体：越前市教育委員会

調査面積：57 m²

時代：古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 岡本山古墳群は岡本山北頂部に前方後円墳 1 基と、それに南接して方墳と考えられる古墳 1 基の計 2 基からなる古墳群であるとされています。現在、土砂採取により北・西部の一部が破壊され、自然崩落が徐々に進んでいる状況であり、かねてより崩落被害の少ない早期の段階での発掘調査の必要性が指摘されておりました。以上のような状況を踏まえ、平成 20 年度より範囲確認調査を実施することになりました。

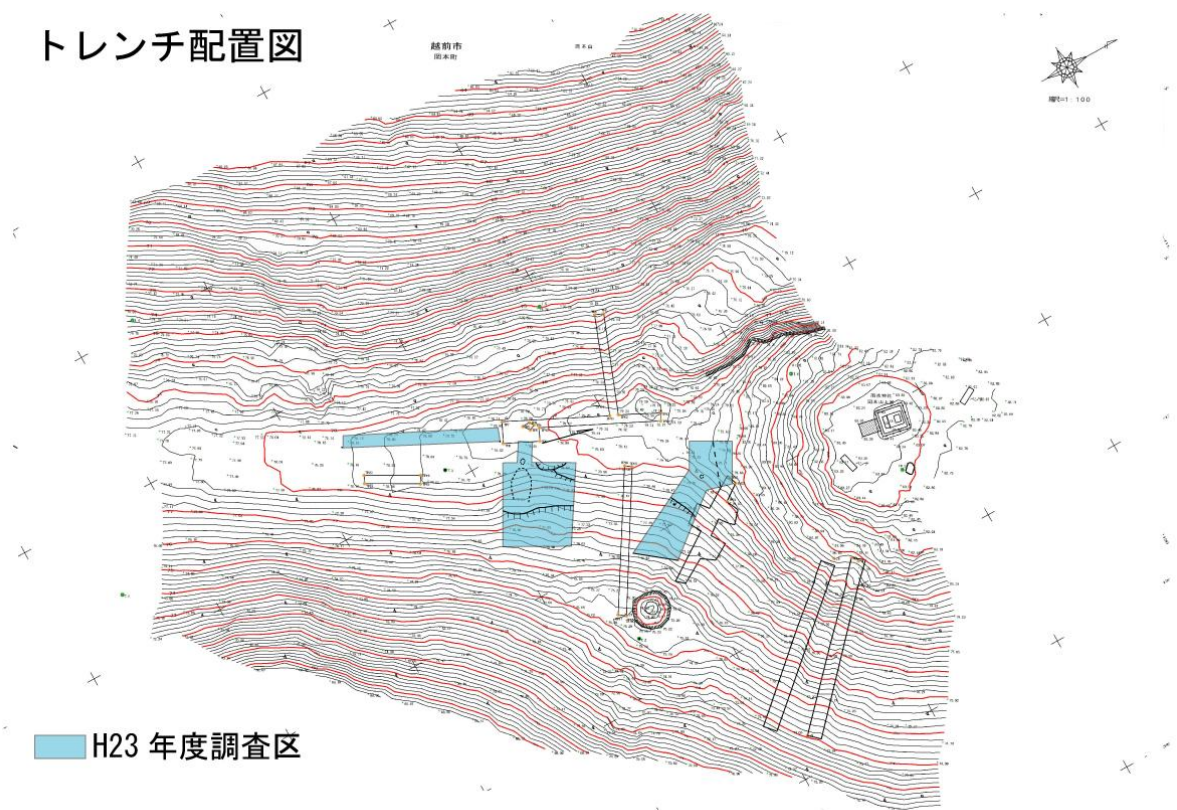
平成 23 年度は前方後円墳のクビレ部と前方部の南東部、南接する方墳の調査を実施しました。方墳については、南北軸にトレンチを設定し行いました。調査の結果、表土下 10 cm～20cm より地山と考えられる岩盤層が検出されました。昨年、並行して設定したトレンチで発見された溝状の落ち込みは今回のトレンチでは発見されず、遺物に関しても土師器が 1 点出土したのみで、方墳の存在については再検討する必要性が出てきました。前方後円墳については、昨年出土した樹立埴輪の位置を前方後円墳の南端と考え、そこから墳形に沿うように東側へトレンチを設定し掘削を行いました。それから、前方部と後方部のクビレ部分が明確ではなかったため、括れ部分にもトレンチを設定しました。調査の結果、昨年度に発見されたような樹立埴輪は検出されませんでした。底部が比較的まとまって出土するなど、原位置を留めている可能性が高い埴輪片群は 2 箇所発見されました。

遺物 多くの埴輪片、須恵器片等が出土しました。特にクビレ部分からは多く出土しています。須恵器片に関してはこのクビレ部分から集中して発見されました。器種については現在、接合等の作業中で明確ではありませんが、須恵器は高杯、器台等、埴輪は円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪等だと思われます。

まとめ 今年度の調査は昨年度発見された樹立埴輪の続きを探し、墳形を明確にすることが大きな目標でした。その為、トレンチも昨年度まで行ってきたような幅の細いものではなく、幅の広いトレンチを設定し掘削を行いました。埋土からは多くの埴輪片が出土しましたが、その出土状況は広範囲、なお且つ層の上下を問わずに出土するという状況で、想定していた樹立埴輪は見つかりませんでした。埴輪片の出土量から考えて、当時は相当数の埴輪列があったと想定されるのですが、そのほとんどが破壊されているということが今回の調査で、

より明確になりました。今後は今回の調査を含む平成 20 年度から 23 年度までの 4 年間の調査結果と、今回の 4 年間の調査以前に行われた調査成果を合わせて、岡本山古墳群の報告にまとめたいと思います。
(野沢雅人)

トレンチ配置図



クビレ部



南東部